

図書館だより

69

見て・さわって・知ろう！本のかたち



ふだん私たちが手に取っている「本」は、どのように形作られているのでしょうか？1月28日、谷戸図書館にて小学生・中学生を対象に「製本&活版印刷ワークショップ★マイノートとカラフルなポストカードを作ろう！」を実施し、本の仕組みや成り立ちを学びました。

3色刷りのポストカードを印刷！



ノートは畳一枚分の大きな紙からつくるよ。

博物館の工房で実際に使用している「ADANA印刷機」。しっかり体重をかけてローラーをうごかすよ。

講師として印刷博物館の皆さんをお招きしました。子どもたちは初めての印刷機に緊張しながらも、興味津々の様子でした。

会場では活版印刷の歴史や仕組みを解説した資料、印刷機の部品インキのサンプルを手にとって見る事ができました。

たくさんの方にご参加いただき、紙の「本」への親しみや愛着と、もの作りの楽しさを共有する時間となりました。



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

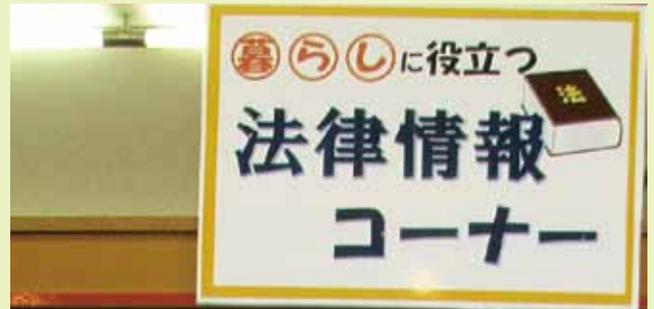
中央図書館に「暮らしに役立つ法律情報コーナー」ができました

普段の暮らしからは遠いところにあって、堅苦しいイメージのある“法律”。しかし、何かトラブルに巻き込まれたときに、力強い味方になるのもまた“法律”です。

このコーナーでは、生活の中で起こる法的トラブルの解決に参考となる本のほか、法律の入門書や調べ方の本を集めました。

こんなときにご利用ください

- 生活のトラブルについて、関連の本を調べたいとき
- 弁護士など専門家に相談する前の下調べや、相談のあとにご自身で調べたいとき
- 自治体や専門家の相談窓口について知りたいとき

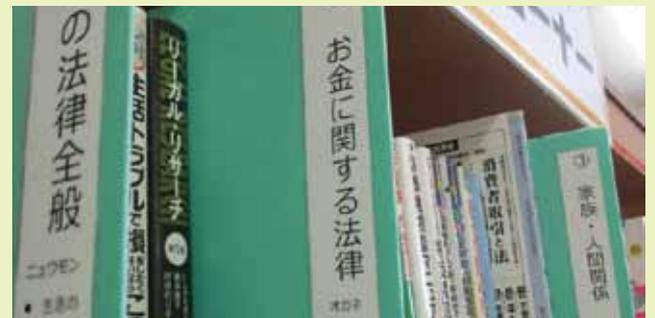


関連情報が調べられます

- 中央・保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館では、館内のパソコンでインターネットが利用できます。「現行法令」や「官報情報検索サービス」などのオンラインデータベースを利用して、現在までの法令を調べることが出来ます。

こんな資料があります

- 身近な法的トラブルの解決に参考となる本
 - 法律や判例情報の調べ方に関する本
 - 主題別の六法
 - 判例集、判例雑誌
 - 法律情報に関するパンフレット類
- などの資料がコンパクトにまとめて配置してあります。



ひばりが丘図書館のYAコーナーがリニューアルしました！



今回のリニューアルでは、「進路」「部活」「勉強法」という3つのテーマから本が探せるようになりました。また、中学生のおすすめ本のPOP展示も行っています。他にも、ペーパーバックの洋書や、調べ物に使用できる辞書もあり、読書や勉強に利用しやすい書架となっています。YA専用閲覧席も設置しました。新しくなったひばりが丘図書館のYAコーナーに、ぜひお越しください。

※YA(ヤングアダルト)とは、13~18歳のみなさんを指します。西東京市図書館では、コーナーの設置をはじめ、その世代に向けたさまざまなサービスを行っています。

「夏目漱石と文豪たちに学ぶ楽しい手紙と愉快な人生」

なか がわ えつ
講師 中川 越さん

手紙文化研究家

NHKラジオ・「ラジオ深夜便/文豪通信」

レギュラー出演中

東京新聞「手紙 書き方面白い方」連載中



中川さんが講演会の葉の表紙に描いたイラスト。漱石への親愛にあふれています。葉は図書館でご覧いただけます。



参加者の角本さんが、講演中にさらさらと描いていた講師の姿です。丁寧で一人一人に寄りそう様子が伝わってきたので、思わずお借りして掲載させてもらうことにしました。

夏目漱石や文豪たちの手紙が、今の私たちに、素敵な手紙の書き方と、愉快で豊かな毎日の過ごし方を伝えていることを、中川さんの解説により知ることができました。「講演後、心をこめて自分らしい手紙を書いてみたくなりました」(59歳男性)「戦前漱石全集を愛読しましたが、講演で漱石の手紙から人間味あふれるあたたかな眼差しを感じ、目からウロコの思い、気持ちが明るくなりました」(92歳女性)…。数多くのご満足と次回講演への期待もいただきました。

中川さんが参加者に宛てて事前にかかれ、講演の初めに読み上げた巻紙の手紙は、図書館ホームページで紹介しています。



○講演会を終えて○

中川 越

私は勉強が不得意で嫌でした。ところが不思議なことに、夏目漱石や芥川龍之介などの文豪たちの感じ方、考え方は、とてもよくわかりました。ただし、それは教科書や先生たちのお陰ではありません。文豪たちの手紙を読むと、本人に直接会った気になり、たくさんのいいもの、味わい深いものが生き生きと伝わってきて、手紙というものの本質、そして、その手紙を支えた彼らの奥深い日常が実感できました。私には系統だった学問も知識もなく、実に貧弱な駆け出しの一読書人にすぎないのですが、だからこそお伝えできる新鮮なものがあるのではないかと、身の程知らずにも登壇を決意しました。その結果の良し悪しは私にはわかりません。いくつもの反省ばかりが今胸にわだかまります。「文は人間である」と、漱石はある手紙の中でいいました。ということは、「講演もまた人間である」。手紙を含めた文というものは、書いた人間そのものの写し鏡で、作法やテクニックで正体を隠しおせるものではありません。講演もまた同様の事情に裏打ちされているはず。さらなる修養の後、改めて再度登壇の機会を得られればと、出席の皆さんのあたたかな眼差しに力を得て、講演を終えた今、性懲りもなく思います。

にんにん西東京



西東京市図書館キャラクター
西都右京くん

第19回 「田無用水」

市域西部、青梅街道と東京街道の分岐点、橋場。ここから青梅街道沿いに東に延びる田無用水(富士見川と田柄川)は、かつて地域の人々に多くの恩恵をもたらしました。現在は暗渠となり「ふれあいのこみち」「やすらぎのこみち」として親しまれています。

田無では、慶長年中(1596〜1614)、江戸城改築のための石灰運搬を勤めるため、谷戸の人々が青梅街道筋へ移住することになりましたが、水の乏しい土地柄で飲水や農業用水不足が深刻化しました。江戸と羽村の陣屋を往復する際に立ち寄る幕府の役人にその窮状を訴え、ようやく元禄9年(1696)、玉川上水から田無村への呑用水(田無用水)分水開削が実現したとされています。

田無用水は、小平市の喜平橋付近(喜平町1丁目)で玉川上水から分水し、回田町、鈴木町、花小金井を経て西東京市に入り、立川道に沿って橋場に達し、そこで南北二筋に分かれます。共に青梅街道と平行して東に流れ東端は石神井川に注いでいます。田無村では水料として、明治初期まで年間1両を役所へ支払いました。用水は水車の動力としても使

われ穀物の精白・製粉を行いました。近世の田無用水には水車4台が設置されました。明治7年(1770)、田無新田用水が関野新田用水(小金井市)から分水されています。

文久3年(1863)玉川上水分水口付け替えにあたり、地盤の緩みを考慮して77m上流に胎内掘(トンネル)用水路を設置しました。

明治3年(1870)、新政府の「分水口改正」により、33ヶ所の分水口を減らして一本の水路「新掘用水」にまとめ通船を可能とする工事が各村の負担で完成しました。同時期に芝久保用水が掘削されたと思われ、しかし、末端の流域まで十分な水量を得ることが出来ず、明治8年(1875)、再び玉川上水直分水となり通船も2年で禁止されました。

田無用水分水のひとつ田柄用水は明治4年(1871)、開削されました。田無と上保谷、関、上・下石神井、谷原、田中、下土支田、上下練馬の各村で畑を水田とするためです。田無町3丁目付近で分水し、保谷町、富士町と富士街道に沿って練馬区に入り、光が丘公園、北町1丁目で田柄川に合流します。

明治32年(1899)、東京市に淀橋上水場が完成して改良水道(現水道)が誕生しました。江戸から大正時代まで二百余年にわたり人々に恩恵をもたらしてきた田無用水も、井戸水の利用から町営水道へと切り替わり、昭和38、39年(1963、1964)に暗渠となり現在のこみちに生まれ変わりました。



田無用水で雨乞い(昭和15年・1940)
橋場付近(田無町7-3)

平成28年度図書館事業評価の概要

図書館協議会による評価は次のとおりです。

- 健康・医療情報コーナーの資料については分野の性質上、最新のものをご心掛け、一層の充実を期待します。
- 有料データベースについて、小中高生をはじめ、利用者自身が活用できるように支援することを期待します。
- YA世代に図書館に足を運んでもらえる工夫に期待します。
- 1・2歳児向けのおはなし会は、絵本に親しむ親子を増やすファーストステップで今後の拡充、向上を期待します。
- 新聞折込み広告の電子化はユニークな取り組みなので継続を希望します。
- 関係機関と協力し多文化サービスの実現を期待します。



読む? 読む!

今回のテーマは _____

“ジャケ借り”?!

～本棚で出会ったあの一冊～

絵が素敵だなと思い、女の子とキツネの話かと読み始めたら、奥深い世界に引き込まれ感動した一冊でした。

ペンネーム：ポケGOガール

雪がふった朝、森へ向かって走り出した姉のシルヴィ。あとき、彼女の手をはなしてしまったことを悔やみ続ける妹ジュールズのもとに、ふしぎな子ギツネがあらわれて…。神秘の森でくりひろげられる幻想的な物語です。



「ホイッパーウィル川の伝説」

キャシー・アッペルト／著 アリスン・マギー／著
吉井知代子／訳 あすなる書房

小さなアーティスト



「劇をする私たち(あいうえおりば)」

東小学校3年

皆さんは図書館をどのように利用されていますか。私と図書館との係わりの中で最も印象の深い出来事を2つほど紹介します。

1つ目は勤務先の会社で100年史を編集した際、市内、市外の図書館に大変お世話になりました。皆様もご存じでしょうが、市内の図書館では東京都立図書館や国会図書館の蔵書の貸し出しや閲覧ができます。これを利用して、今まで分からなかった関係会社の設立年月や創立当時の本社周辺の状況等を改めて知ることができました。また、一部の事項については過去の社史の誤りを発見し、正すことも出来ました。これは図書館の情報化の進展なしにはできないことでした。特に役に立ったのは「帝国銀行会社要録」という書籍で明治から昭和18年くらいまでの会社が殆ど掲載されています。

2つ目として、最近では技術の進展が早いことから、最近書かれる文献には、基礎的な事項の記載が不足しています。一例を挙げれば流

れ作業は現在常識的に設計や運用がされていますが、本来の流れ作業は非常に汎用的な作業が可能な人間を一行に並べて行うものでした。こうしたラインを設計し、運用する際の注意事項や所要能力の測定や同期化といった基礎事項を詳しく説明している文献は昭和30

年代に書かれたものしかありません。現在、盛んに言われるJIT(※)等では、こうした概念を理解している前提で解説がなされていますので、最近の文献を読んだだけではどうしても理解が皮相的になりがちです。その

結果、製品の変更に伴い設備の改造が必要になったり、スピードアップが難しいといった問題が発生しがちです。基礎から学べる文献はやはり図書館にしかありません。

以上のように図書館は何かにつけて大きな役割を果たすものですので、皆様方も活用に努められては如何でしょうか。

※【図書館注】JIT方式：生産時の無駄を排除することによって、必要なときに必要なものを必要なだけ生産する方式。
(デジタル大辞泉より2018/2/17最終確認)

利用者エッセイ わたしと 図書館

むら かみ まさ のり
村上雅則